

ご神体

大熊かつじ

「ご神体は『安全ピン』だよ。」

「え？」私は言葉を失った。

子供の頃から七五三やら初詣や願掛けに詣でていた神社のご神体が『安全ピン』だと云うのだ。

「なに？何？じゃあ、私はずーっと安全ピンにお願いごととしてたってゆーの？」

「まあ、そーゆーことになるねえ〜」お婆ちゃんは笑いながらそう答えた。

「ぜーんぜんダメじゃん。。」私はがっかりした口調でつぶやいた。

「何がダメなの？」お婆ちゃんはそう私に聞いた。

「だって、安全ピンだと全然ご利益ないじゃん？」私が答えると

「じゃあ、マコトは何だったらいいの？河童のミイラとか？天狗のウチワとか??」

「そーゆーワケじゃないけど…」私が口ごもるとお婆ちゃんは続けた。

「たとえ、ご神体が何であれそれを奉ることでみんなの想念が宿る。ご神体とはそういうものだよ。」

一人では到底叶わないことでも皆で願えば変えられることもある。そう云った念を集める対象は何でもいいんだよ。

ただ、相応にご利益のありそうなモノの方が皆が有り難がるけどね…」そう言うとお婆ちゃんはまた笑った。

私は何か釈然としない気持ちを持ちながらも...

世の中の大切なこととはそう云う類いモノなんじゃないか?...と、またひとつ真理に迫った気がした。